

ニューヨーク公共図書館

エクス・リブリス

ゲストトーク+特別上映会—岡村幸宣

丸木美術館
学芸員

—富田克也・相澤虎之助

映像
集団

〈司会進行〉奥野美友紀



世界で最も有名な図書館のひとつ

その舞台裏へ

ドキュメンタリーの巨匠、フレデリック・ワイズマン監督作品

2019.12/21 SAT オーバード・ホール1階

ハイビジョン・シアター
(富山市牛島9-28)

2017年製作 / 205分 / フォルジ
原題: Ex Libris: The New York Public Library
配給: ミッドウェイ・フィルムズ・アメリカ
監督・製作: フレデリック・ワイズマン

日時 | 2019年12月21日(土) 開場 | 12:30 上映開始 | 13:00 ゲストトーク | 16:45
料金 | 一律 2,600円 ご予約・お問い合わせ | cinema@hotori.jp
主催 | HOTORI×ほとり座 企画 | アトリエセーバー (CARTE BLANCHE)



ニューヨーク公共図書館

エクス・リブリス

世界中の図書館員の憧れの的、
 ニューヨーク有数の観光スポット、世界最大級の知の殿堂。
 その舞台裏から、この図書館が世界で最も有名である〈理由〉が見えてくる。
 巨匠フレデリック・ワイズマンの傑作ドキュメンタリー。

世界最大級の知の殿堂

世界中の図書館員の憧れの的であり、ニューヨーク有数の観光スポット。本作の主演は、荘厳な19世紀初頭のボザール様式の建築で知られる本館と92の分館からなる世界最大級の〈知の殿堂〉ニューヨーク公共図書館だ。この図書館は、作家サマセット・モーム、ノーマン・メイラー、トム・ウルフ、画家アンディ・ウォーホルなど文学、芸術などの分野でも多くの人材を育ててきた。またここは世界有数のコレクションを誇りながら「敷居の低さも」世界一と言えるほど、ニューヨーク市民の生活に密着した存在でもある。その活動は、「これが、図書館の仕事!？」と、私たちの固定観念を打ち壊し、驚かす。

市民の生活に密着した存在

映画には、リチャード・ドーキンス博士、エルヴィス・コストロやパティ・スミスなど著名人も多数登場するが、カメラは図書館の内側の、観光客は決して立ち入れないSTAFF ONLYの舞台裏を見せていく。図書館の資料や活動に誇りと愛情をもって働く司書やボランティアたちの姿、舞台裏のハイライトとも言える何度も繰り返される幹部たちの会議——公民協働のこの図書館がいかに予算を確保するのか、いかにしてデジタル革命に適応していくのか。ベストセラーをとるか、残すべき本をとるのか。紙の本か電子本か。ホームレスの問題にいかに向きあうのか。その丁々発止の意見のやりとりは、目が離せない。

フレデリック・ワイズマン最新作

監督は2016年にアカデミー名誉賞を受賞したドキュメンタリーの巨匠、フレデリック・ワイズマン。1967年の第1作以来、89歳となる現在にいたるまで1年~1年半に1本のペースで新作を発表。2018年のヴェネツィア国際映画祭で第42作にあたる最新作を発表したばかりの「生ける伝説」だ。12週間に及んだ撮影から、この場面の次はこの場面しかないという厳格な選択による神業のような編集により、この図書館が世界で最も有名である理由>を示す事で、公共とは何か、ひいてはアメリカ社会を支える民主主義とは何かをも伝える。図書館の未来が重要な意味を持つ、必見の傑作ドキュメンタリーがここに完成した。

GUEST TALK ゲストトーク | 16:45~



岡村幸宣

原爆の図丸木美術館学芸員

1974年東京生まれ。2001年より原爆の図丸木美術館(埼玉県東松山市)に学芸員として勤務し、丸木位里、丸木俊夫妻を中心とした社会と芸術表現の関りについての研究、展覧会の企画などを行っている。著書に「非核芸術案内」(岩波書店、2013年)、『「原爆の図」全国巡回一占領下、100万人が観た!』(新宿書房、2015年)、『「原爆の図」のある美術館』(岩波書店、2017年)など。近く「未来へー原爆の図丸木美術館学芸員作業日誌2011-2016」(仮題)を刊行予定。



富田克也

映像集団〈空族〉

1972年、山梨県生まれ。2003年に処女長編『雲の上』、2007年に『国道20号線』を発表。続いて『サウダーチ』('11)ではナント三大陸映画祭グランプリ、高崎映画祭最優秀作品賞、毎日映画コンクール優秀作品賞&監督賞をW受賞など数々の賞に輝いた。その後『バンコクナイツ』('16)は、ロカルノ国際映画祭など世界中の約30の海外映画祭に招待。最新作となる『典座 -TENZO-』は2019年度のカンヌ国際映画祭 批評家週間「特別招待部門」に選出。既にフランスの全国公開が決まっており、2019年秋に150館以上で公開される予定だ。



相澤虎之助

映像集団〈空族〉

1974年埼玉県生まれ。早稲田大学シネマ研究会を経て空族に参加。監督作、『花物語バビロン』('97)が山形国際ドキュメンタリー映画祭にて上映。『かたがら街』('03)は富田監督作品『雲の上』と共に7ヶ月間にわたり公開。空族結成以来、『国道20号線』('07)、『サウダーチ』('11)『チェンライの娘』('12)『バンコクナイツ』('16)『典座 -TENZO-』('19)と、富田監督作品の共同脚本を務めている。自身監督最新作はライフワークである東南アジア三部作の第2弾『バビロン2 -THE OZAWA-』('12)。



〈司会進行〉
奥野美友紀

富山県生まれ。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程満期退学。博士(文学)。専門は日本近世文学。県内の大学・短大・専門学校・市民講座などで非常勤講師をつとめる。また、子どもの／と言語表現にも関心を持ち、さまざまな場で活動を行う。小学生から大人まで、幅広い世代の人々のことばと表現に関わっている。

2019年12月21日(土)
 オーバード・ホール1階
 ハイビジョン・シアター(富山市牛島9-28)

料金 | 一律 2,600円 ご予約・お問い合わせ | HOTORIXほとり座 cinema@hotori.jp / 076-422-0821

主催 | HOTORIXほとり座 企画 | アトリエセーバー(CARTE BLANCHE)